

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|------------------|------|--------|-------|---|-----|-------------------|--|--|
| 事業コード | 1 | 事業名 | 巡回による「課題抽出調査」の実施 | | | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 1 | 施策名 | 個社支援強化のための支援体制づくり | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

県連合会が示した今後10年間の事業者数シミュレーションによると、当会地区内小規模事業者数は令和7年度には436人、16.7%減少すると予測されており、このままでは地域自体が衰退の一途をたどってしまうという危機感から、小規模事業者の減少速度を鈍化させるための支援が最優先課題であった。

2. 事業のねらい

巡回による「課題抽出調査」から、個々の実態を把握した上で支援内容の質の向上に取り組むとともに、業種別に担当を配し、より踏み込んだ個社支援を実施。専門家派遣を伴う高度な課題に対しては、チーム支援により、複数の視点で協議し課題解決へと取り組む。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | A | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

会員事業者の課題の把握を的確に行うため、平成29年度と平成30年度で全会員を巡回により調査した。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

昨年度に終了した「課題抽出調査」を活用した巡回に取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---|---|-----|
| 指導員一人当たりの巡回件数の目標: 500件 うち解決提案・実行支援件数の割合: 40% | 指導員一人当たりの巡回件数の実績: 630件 うち解決提案・実行支援件数の割合: 45% | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 巡回件数/指導員1人【単位:件】 | | | | | 項目 | 解決提案・実行支援の割合【単位:%】 | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|------------------|------|------|-----|-----|-----|--------------------|------|------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | 560 | 520 | 500 | 480 | 480 | 目標 | 15 | 30 | 40 | 45 | 50 | 目標 | | | | | |
| 実績 | 610 | 648 | 630 | | | 実績 | 31 | 36 | 45 | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | 109% | 125% | 126% | | | 達成率 | 207% | 120% | 113% | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | a | a | a | | | 達成度 | a | a | a | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

事業者の課題を的確に把握することにより、課題に適した支援が可能となる。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

課題抽出の内容を確認し、事業者支援にあたっている。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

課題抽出調査結果を確認することにより、これまでより支援時間も短くなった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

「課題抽出調査」の内容を活用し、各種の補助金活用の提案に活かしているから、必要である。

3. 課題

「課題抽出調査」の結果を更に活用できるよう検討する必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

事業所の状況把握のため、5年毎に課題抽出調査を実施する。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-------------|------|--------|-------|---|-----|-------------------|--|--|
| 事業コード | 2 | 事業名 | チーム支援の積極的活用 | | | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 1 | 施策名 | 個社支援強化のための支援体制づくり | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

県連合会が示した今後10年間の事業者数シミュレーションによると、当会地区内小規模事業者数は令和7年度には436人、16.7%減少すると予測されており、このままでは地域自体が衰退の一途をたどってしまうという危機感から、小規模事業者の減少速度を鈍化させるための支援が最優先課題であった。

2. 事業のねらい

巡回による「課題抽出調査」から、個々の実態を把握した上で支援内容の質の向上に取り組むとともに、業種別に担当を配し、より踏み込んだ個社支援を実施。専門家派遣を伴う高度な課題に対しては、チーム支援により、複数の視点で協議し課題解決へと取り組む。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|---|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | A | R1 | A | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|---|----|

チーム支援については、各自目標を立て計画的に実施している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

各自掲げた目標達成に向けて積極的に取り組んだ。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|-----------------------|----------------------|-----|
| 補助金申請やマル経案件について取り組んだ。 | 補助金支援 30件 マル経 14件 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 項目 | | | | | 項目 | 項目 | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

支援成果を高めるためには、チーム支援は効果的であるとともに、日常業務での職員のスキルアップにもつながり重要な取り組みである。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | a |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

個社支援では特別な目標設定はしていないが、補助金申請等でチーム支援を実施している。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | a |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

複数で支援することで、支援成果を上げることを目的に行っているが、コスト削減にも心がけて行っている。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | A |
|--|---|

事務分掌で複数担当を設けているほか、必要に応じてチーム支援を行っている。職員によって多少バラツキがあるものの、全体的には経営指導員と経営支援員、経営指導員間で連携したチーム支援は増えている。

3. 課題

チーム支援の取扱いについて基準を定め、職員間のバラツキを低減するとともに、支援精度を高められるよう工夫する。

4. 今後の対応方針(改善点)

件数等具体的目標の設定により、チーム支援の精度を高められるよう検討する。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|---------------------------|------|--------|-------|---|-----|---------------------------|--|--|
| 事業コード | 3 | 事業名 | 既存事業者と農業者の交流によるビジネスチャンス拡大 | | | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 2 | 施策名 | 地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本地域は、県都秋田市ではあるものの風光明媚な田園風景が随所に見られることから、芸術家のアトリエや6次産業化に取り組む農家が多く存在している。本地域への芸術家や事業者への誘致、6次産業化を目指す農家が増加傾向にある中、秋田市も機構改革を行い「産業振興部」「観光文化スポーツ部」を創設し各種施策を強化している。

2. 事業のねらい

基幹産業を担う農業者を対象に、各種施策を活用し6次産業化への支援を行うとともに、既存事業者とのマッチングを促進し、ビジネスチャンスの拡大を図る。また、地域内の空き家等に対して芸術家や事業者の誘致を促進する「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトについては、引き続き地域の経済波及効果を高める取組を実施する。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|---|----|
| 過年度 | H29 | B | H30 | B | R1 | B | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|---|----|

農業者会員を増やせるように努力し、農業会員数が増えている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

20名の農業会員を目標に加入促進を進める。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|------------|-------|-----|
| 農業者2件の加入促進 | 3件の加入 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

農業者と既存事業者の連携は、当地域に新たなビジネスの創出につながる重要な取り組みである。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | a |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

農業者の加入促進が、計画より進んでいる。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | c |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

効率性を判断できる状況まで至っていない。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | B |
|--|---|

農業会員の増強に努力しており、会員数も予定以上に増えているが、農業者会員の組織化や交流などは現在行っていない。

3. 課題

農業会員の目標20名に近づいていることから、来年度以降農業者と既存事業者の連携方法について具体的検討を進める必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

来年度以降、農業部会開設など具体的検討をする。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|------------------------------|-------|--------|-------|--------------|-----|---------------------------|
| 事業コード | 4 | 事業名 | 農商工連携、6次産業化、グリーンツーリズム施策の活用強化 | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 2 | 施策名 | 地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大 |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本地域は、県都秋田市ではあるものの風光明媚な田園風景が随所に見られることから、芸術家のアトリエや6次産業化に取り組む農家が多く存在している。本地域への芸術家や事業者への誘致、6次産業化を目指す農家が増加傾向にある中、秋田市も機構改革を行い「産業振興部」「観光文化スポーツ部」を創設し各種施策を強化している。

2. 事業のねらい

基幹産業を担う農業者を対象に、各種施策を活用し6次産業化への支援を行うとともに、既存事業者とのマッチングを促進し、ビジネスチャンスの拡大を図る。また、地域内の空き家等に対して芸術家や事業者の誘致を促進する「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトについては、引き続き地域の経済波及効果を高める取組を実施する。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | C | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

農業関連事業者に対する販路拡大支援等を積極的に行っている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

継続して目標達成に取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|------------------------|------------|-----|
| 農業者関連事業者に対して各種施策の活用を支援 | 補助金申請 7事業所 | c |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 各種施策の活用支援【単位:件】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | |
|-----|-----------------|-----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|----|
| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 |
| 目標 | 6 | 9 | 12 | 15 | 15 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | 12 | 6 | 7 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | |
| 達成率 | 200% | 67% | 58% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | |
| 達成度 | a | c | c | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **b**

〈評価の理由〉

当地域にとって、既存事業者の販路拡大やビジネスチャンスの創出には、農商工連携や6次産業化の促進は効果的である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **b**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

農業会員事業者の会員が増えており、支援対象者も増えてきたことから、実績も徐々に増えている。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **c**

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コスト削減の具体的実践までは至っていない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **B**

農業関連事業者の加入も増え、補助金等の活用支援も徐々に増えている。

3. 課題

現状では、受け身的指導が多く、提案型に結び付けられるよう対策を講ずる必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

農業関連事業者の支援事例を増やししながら支援ノウハウを蓄積する。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|------------------|------|--------|-------|---|-----|---------------------------|--|--|
| 事業コード | 5 | 事業名 | 事業者の誘致促進及び創業支援強化 | | | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 2 | 施策名 | 地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本地域は、県都秋田市ではあるものの風光明媚な田園風景が随所に見られることから、芸術家のアトリエや6次産業化に取り組む農家が多く存在している。本地域への芸術家や事業者への誘致、6次産業化を目指す農家が増加傾向にある中、秋田市も機構改革を行い「産業振興部」「観光文化スポーツ部」を創設し各種施策を強化している。

2. 事業のねらい

基幹産業を担う農業者を対象に、各種施策を活用し6次産業化への支援を行うとともに、既存事業者とのマッチングを促進し、ビジネスチャンスの拡大を図る。また、地域内の空き家等に対して芸術家や事業者の誘致を促進する「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトについては、引き続き地域の経済波及効果を高める取組を実施する。

| | | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 3. これまでの評価結果 | 過年度 | H29 | A | H30 | C | R1 | | R2 |
|--------------|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

芸術家の誘致及び創業支援を積極的に行い、会員増強に結び付けている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

事業者の誘致(創業支援)に取り組み、空き家等の情報収集、情報提供を進める。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|-------------------------|--|-----|
| 創業支援並びに芸術家と地区内事業者の連携の促進 | 2件の創業を支援し、創業させた。 うち1件はアンテナショップとして芸術家と連携 | a |

| 項目 | 事業者の誘致(創業支援含む)【単位:件】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | |
|-----|----------------------|-----|------|----|----|-----|----|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|----|
| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 |
| 目標 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | |
| 実績 | 1 | 0 | 2 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | |
| 達成率 | 100% | 0% | 100% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | |
| 達成度 | a | c | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | b |
|--|---|

〈評価の理由〉

誘客の要ともいえる芸術家をふやすことにより、既存事業者にとってもビジネスチャンスの拡大につながる。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | b |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

芸術家の支援は少なくなってきたが、農業者等の創業支援に力を入れている。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | c |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コスト削減までは至っていない。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | B |
|--|---|

芸術家の創業支援は少なくなってきたが、農業者等の創業支援に力を入れている。

3. 課題

芸術家の創業支援について今後どのようにすべきか検討が必要。

4. 今後の対応方針(改善点)

農業者等創業支援に力を入れる。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-------------|------|--------|-------|---|-----|-------------------|--|--|
| 事業コード | 6 | 事業名 | 会員加入促進運動の実施 | | | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 3 | 施策名 | 実効性の高い会員加入促進運動の実施 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

地域内商工業者を増やすための事業として実施している「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトが5年目を迎え、事業者の移住に実績を重ねてきている。

2. 事業のねらい

農業者及び「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトにより誘致した事業者を対象に、実効性の高い会員加入促進運動を実施。また、農業者会員が一定の規模となった場合には「農業部会」の創設を検討し、業種間連携を図る。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | B | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

ここ数年、会員数を維持してきたが、平成30年度は維持できず減少した。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

新規会員加入促進を職員だけではなく、役員の協力も強化し取り組んだ。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|------------------------------|------------------------------------|-----|
| 役員等から未加入事業者の情報を得て、加入促進に取り組む。 | 実績は、16事業所の加入に留まったが、令和元年度は1名の増となった。 | b |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | b |
|--|---|

〈評価の理由〉

職員だけではなく、16事業所が加入したうち役員からの紹介で7事業所が加入した。役員の加入促進への意識が高まっている。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | b |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

目標である21事業所の加入には至らなかったが、会員数の維持については1名増となった。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | c |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コスト縮減や効率性ある加入促進までは至っていない。地道な努力を続けている状況。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | B |
|--|---|

目標である24事業所の加入には至らなかったが、会員数の維持については1名増となり、役員の加入促進に対する意識も高まってきた。

3. 課題

新規加入者が少ない地域であることから、ターゲットの絞り込みや加入促進方法についてより深く検討する必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

今後は、未加入者の多い業種を役職員一体となって分析し、加入促進運動を実施する。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-------------|------|--------|-------|---|-----|-------------------|--|--|
| 事業コード | 7 | 事業名 | 「農業部会」創設の検討 | | | 戦略コード | 1 | 戦略名 | 育て・挑戦を支える商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 3 | 施策名 | 実効性の高い会員加入促進運動の実施 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

地域内商工業者を増やすための事業として実施している「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトが5年目を迎え、事業者の移住に実績を重ねてきている。

2. 事業のねらい

農業者及び「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトにより誘致した事業者を対象に、実効性の高い会員加入促進運動を実施。また、農業者会員が一定の規模となった場合には「農業部会」の創設を検討し、業種間連携を図る。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | B | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

事業者になり得る農業者の会員加入促進を目標設定している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

事業者になり得る農業者の会員加入促進を強化しており、令和元年とは、農業関連事業者を3事業所加入させた。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---------------------|-----------|-----|
| 農業者会員の加入目標を2事業所とした。 | 3事業所加入した。 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 農業者会員数【単位:会員数】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|----------------|------|------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | 12 | 13 | 16 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | 133% | 130% | 145% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | a | a | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) **b**

〈評価の理由〉

農業会員が20名程度になるまで計画的に加入促進を進める。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) **a**

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

農業者会員が、計画以上に加入しており、目標の20名に近づいている。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) **c**

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

特に、取り組んでいない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 **B**

芸術家の会員加入促進は停滞しているが、農業者の加入は計画以上に進んでいる。

3. 課題

農業会員20名に近づいていることから、農業者会員と一般会員の連携方法について検討する必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

山形県で農業部会を設立している商工会があることから、先進地視察等に取り組む。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|--------------------------|------|--------|-------|---|-----|------------------------|--|--|
| 事業コード | 8 | 事業名 | 「職務遂行能力チェックシート」活用による自己啓発 | | | 戦略コード | 2 | 戦略名 | プロ集団の商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 4 | 施策名 | 優れた個社支援を実施するための職員の資質向上 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本商工会は、本所に職員が集約されており、情報や意思決定の伝達が速いことが強みである。

2. 事業のねらい

県連合会から示される「職務遂行能力チェックシート」に基づいて、事務局長が職員個々の能力を客観的に評価し見える化、並びに「OJT推進ガイドライン」に基づき、職種・階層別に日常業務を通じた能力向上を図る。

3. これまでの評価結果

| | | | | | |
|-----|-----|-----|---|----|----|
| 過年度 | H29 | H30 | B | R1 | R2 |
|-----|-----|-----|---|----|----|

目標値を有給休暇の取得率に置き換え達成している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

継続して職務遂行能力の向上に努め、補助金提案・実行など個社支援にも注力する。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|--------------------|---------------------|-----|
| 職務遂行能力向上による有給休暇の取得 | 有給休暇の取得率は目標を達成している。 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 職務遂行能力向上率【単位:%】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-----------------|-------|-------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | 試行期間 | 5 | 10 | 20 | 30 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | - | 102 | 168 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | - | 2040% | 1680% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | a | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

今年度より「5日以上の有給休暇取得」が義務付けられており、有給休暇を取得しやすい環境づくり、そのための職務遂行能力の向上は必要である。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | a |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

目標は達成されている。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | a |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

残業時間を大きく変動させることなく、有給休暇の取得に努めた。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | A |
|--|---|

個々の職務遂行能力の向上、職員間の連携が有給休暇の取得に繋がっている。

3. 課題

4. 今後の対応方針(改善点)

引き続き有給休暇を取得しやすい環境づくり、職務遂行能力の向上に努める。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|--------|------|--------|-------|---|-----|------------------------|--|--|
| 事業コード | 9 | 事業名 | OJTの推進 | | | 戦略コード | 2 | 戦略名 | プロ集団の商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 4 | 施策名 | 優れた個社支援を実施するための職員の資質向上 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本商工会は、本所に職員が集約されており、情報や意思決定の伝達が速いことが強みである。

2. 事業のねらい

県連合会から示される「職務遂行能力チェックシート」に基づいて、事務局長が職員個々の能力を客観的に評価し見える化、並びに「OJT推進ガイドライン」に基づき、職種・階層別に日常業務を通じた能力向上を図る。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | A | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

日常業務の中でOJTを実施し、目標を達成している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

専門家派遣、講習会等の際には職員が同席し、スキルアップを図る。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---|--------------------------------------|-----|
| 「経営指導員が経営支援員に対してOJTを実施する」を基本として業務の中でOJTを実施。 | 簡易診断レポート、共済の手続き、税務指導などの業務においてOJTを実施。 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | OJT実行時間【単位:時間】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | | |
|-----|----------------|------|------|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|----|----|
| | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 |
| 目標 | 50 | 100 | 100 | 100 | 100 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | | |
| 実績 | 52 | 125 | 120 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | | |
| 達成率 | 104% | 125% | 120% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | | |
| 達成度 | a | a | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

支援スキルの向上を図ることは職員として必須であり、継続して取り組む必要がある。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | a |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

日常的にOJTをすることで目標は達成されている。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | a |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

複数担当制とすることで、日常業務の中でOJTを実践する環境が整い、効率化が図られている。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | A |
|--|---|

職員一人一人が複数の業務に対応できるように事務分掌を複数担当制とし、会員等への対応が遅れないように意識して取り組んでいる。

3. 課題

4. 今後の対応方針(改善点)

継続してOJTを実施して、職員が入れ替わっても業務に支障が出ないようにする。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|---------------------------|------|--------|-------|---|-----|---------------|--|--|
| 事業コード | 10 | 事業名 | アクションプログラム推進委員会(仮称)の設置と運営 | | | 戦略コード | 3 | 戦略名 | 事業者が主役の商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 5 | 施策名 | 商工会事業に会員の声を反映 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

アクションプログラムの検討・作成が終わり、実施段階に入るにあたり進捗状況を評価・検証する必要性があった。

2. 事業のねらい

アクションプログラムの実施段階において、本商工会会員で構成する「アクションプログラム推進委員会」を設置し、実施事業の進捗状況を評価・検証する。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | B | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

本会では、評価委員会を年度末に開催し、事業の進捗、評価について検討を行った。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

C評価の項目について、B評価となるように取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|------------------------------|---------------------------|-----|
| 評価委員会を開催し、評価シートに基づいて評価・検証する。 | 令和元年6月に評価委員会を開催し、評価・検証した。 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

県連から示された様式に基づいた評価シートを用いて評価・分析した。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | b |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

概ね順調に推移しているが、一部でC評価もあった。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | b |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

委員の意見を参考に、PDCAを回し実施している。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | B |
|--|---|

概ね順調に推移しているが、一部でC評価もあったことから、改善の余地あり。

3. 課題

現在C評価の項目の対応

4. 今後の対応方針(改善点)

現在C評価の項目を、B評価になるよう具体的対策を講ずること。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-----------------|------|--------|-------|---|-----|---------------|--|--|
| 事業コード | 11 | 事業名 | 個社の「経営革新」への取組発表 | | | 戦略コード | 3 | 戦略名 | 事業者が主役の商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 6 | 施策名 | 青年部・女性部事業の見直し | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

商工会本来の機能である個社支援へ経営資源を大きくシフトしていくことから、内部組織である青年部・女性部においても「経営者予備軍(青年部)・共同経営者(女性部)」として、これまでの事業参画意識の転換を図り、個社の経営発達に直結する事業展開へのそれぞれ事業の見直しに取り組むこととした。

2. 事業のねらい

青年部においては、現在実施している定例会等で個社の「経営革新」をテーマに、現状分析や今後の取り組みを発表し、他の部員からの提案をもとに計画の充実を図る。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | B | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

商工会事業(会員交流事業)において青年部員自らが補助金活用などの事例発表を行う事で、事業計画、経営計画の策定スキルの向上だけでなく、整理して伝えるスキルなど経営者としての意識向上が図られてきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

商工会事業だけでなく、部員が参加する定例会など、発表の機会を増やすよう検討した。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---|---|-----|
| 1) 全会員を参加対象とした会員交流事業において事例発表を実施する。 2) 青年部員が参加する定例会において事例発表を実施する。 | 1) R1年度の会員交流事業は15周年記念式典を行うこととなったため、事例発表の枠を確保できず、実施できなかった。 2) 定例会では、協議案件が山積したため、事例発表の実施に至らなかった。 | c |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 「経営革新」への取組発表【単位:件】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | | |
|-----|--------------------|------|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|----|----|
| | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 |
| 目標 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | | |
| 実績 | 2 | 1 | 0 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | | |
| 達成率 | 200% | 100% | 0% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | | |
| 達成度 | a | a | c | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | b |
|--|---|

〈評価の理由〉

次代を担う青年部として、自社の事業継続のための経営革新への取組は重要である。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | c |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

諸事業の調整が図れず、計画(Plan)どおりの事業実施ができなかった。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | c |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コストは要していない。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | C |
|--|---|

事業実施ができなかった。

3. 課題

計画的な事業実施に向けた、企画段階での課題整理。

4. 今後の対応方針(改善点)

経営革新に積極的に取組もうとする青年部員を多く輩出できるよう、引き続き重点事業として取組む。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-------------------|------|--------|-------|---|-----|---------------|--|--|
| 事業コード | 12 | 事業名 | 既存商品の見直しと新商品の市場調査 | | | 戦略コード | 3 | 戦略名 | 事業者が主役の商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 6 | 施策名 | 青年部・女性部事業の見直し | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

商工会本来の機能である個社支援へ経営資源を大きくシフトしていくことから、内部組織である青年部・女性部においても「経営者予備軍(青年部)・共同経営者(女性部)」として、これまでの事業参画意識の転換を図り、個社の経営発達に直結する事業展開へのそれぞれ事業の見直しに取り組むこととした。

2. 事業のねらい

女性部においては、現在実施している物販等の機会を活用し、既存商店のブラッシュアップや新商品の市場調査等を実施し、女性の感性を経営に反映させる。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | B | H30 | B | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

部員個社の経営発達に直結するような女性部事業へシフトするために、既存事業の見直しや課題点の洗い出しに時間を要してしまったため、過去2年の達成率は50%に留まった。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

新部員の加入促進と併せて、一人でも多くの部員が参加できる事業を検討しながら、役員を中心に既存事業の見直しを図った。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|--|---|-----|
| 1) 廃油を利用したエコ石けん制作事業について見直しを行った。 2) しじみ貝を活用した手作り交通安全お守りの商品見直しを図った。 | 1) 制作時期が異なり、気温の違いなどから品質にバラツキがでるようになった。また、参加部員も減少しているため、事業を廃止することとした。 2) お守りに同封する商品紹介カードに英語表記を追加してリニューアルした。外国人留学生から好評を得ている。 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 既存商品の見直しと市場調査【単位:件】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|---------------------|-----|------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | 1 | 1 | 2 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | 50% | 50% | 100% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | c | c | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

女性部活動の実践を通じて、企業経営における共同経営者としての事業改善のための具体的なスキルの習得ができ、女性部活動を通じて企業経営への反映を体感できる取組である。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | b |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

女性部活動で製作された商品の改良活動であり、自社商品の改善に向けた試行的取組で、有効性があるととも今後の事業への汎用可能性がある取組である。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | a |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

女性部ならではの視点で低コストに努められている。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | B |
|--|---|

過去2年間の達成率(50%)を踏まえ、今年度100%を実現した。この成果を踏まえて、次年度以降も事業の充実化に努めてほしい。

3. 課題

市場にマッチした(地域の特徴を活かした)商品見直し若しくは新商品開発を目指した市場調査(市場分析)の充実。

4. 今後の対応方針(改善点)

共同経営者として、具体的に自社商品の改良に取り組むことができるよう、さらにそのスキルの向上に向け取り組む。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|--------------------|------|--------|-------|---|-----|--------------------|--|--|
| 事業コード | 13 | 事業名 | 広域連携による効率性の高い事業の構築 | | | 戦略コード | 4 | 戦略名 | 機動的・効率的な商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 7 | 施策名 | 広域連携による効率性の高い事業の構築 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

講習会などを単一の商工会のみで開催するだけでなく、内容に応じて他の商工会と連携し、効率を高める事業実施が求められている。

2. 事業のねらい

従来の枠組み(男鹿潟上南秋河辺エリア)だけに捕らわれず、各商工会や隣接する商工会議所、関係機関等との事業・業務連携、組織連携の可能性を模索し、効率性の高い事業を構築する。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | A | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

他商工会と連携して講習会を開催し、事業者がより多くの講習会に参加できるように取り組んでいる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

地区の経営指導員会議等で連携について意見交換を実施する。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---------------------------------|---|-----|
| 主催講習会の参加対象を他地区の商工会員も参加できるようにする。 | 消費税講習会(4回: 当会・男鹿市・潟上市・湖東3町) 潟上市商工会主催の講習会 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

他商工会と連携し、商工業者の受講の機会を増やす事は有用である。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | a |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

昨年度の3件に対し、本年度は4件となった。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | a |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

連携して講習会を実施することで、コスト低減に繋がった。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | A |
|--|---|

消費税講習会を中心に時流に合ったテーマを選定し、他商工会と連携することで目標を達成している。

3. 課題

4. 今後の対応方針(改善点)

継続して他商工会と連携した講習会等を実施する。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|---------------------|------|--------|-------|---|-----|--------------------|--|--|
| 事業コード | 14 | 事業名 | 講習会等の広域連携開催による業務効率化 | | | 戦略コード | 4 | 戦略名 | 機動的・効率的な商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 秋元 昌人 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 7 | 施策名 | 広域連携による効率性の高い事業の構築 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

講習会などを単一の商工会のみで開催するだけでなく、内容に応じて他の商工会と連携し、効率を高める事業実施が求められている。

2. 事業のねらい

従来の枠組み(男鹿潟上南秋河辺エリア)だけに捕らわれず、各商工会や隣接する商工会議所、関係機関等との事業・業務連携、組織連携の可能性を模索し、効率性の高い事業を構築する。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | A | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

他商工会と連携して講習会を開催し、事業者がより多くの講習会に参加できるように取り組んでいる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

地区の経営指導員会議等で連携について意見交換を実施する。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---------------------------------|---|-----|
| 主催講習会の参加対象を他地区の商工会員も参加できるようにする。 | 消費税講習会(4回: 当会・男鹿市・潟上市・湖東3町) 潟上市商工会主催の講習会 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 広域連携事業の実施【単位:件】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | | |
|-----|-----------------|------|------|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|----|----|
| | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 |
| 目標 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | | |
| 実績 | 7 | 3 | 5 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | | |
| 達成率 | 350% | 150% | 167% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | | |
| 達成度 | a | a | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

他商工会と連携し、商工業者の受講の機会を増やす事は有用である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

目標は達成されている。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

連携して講習会を実施することで、コスト低減に繋がった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

消費税講習会を中心に時流に合ったテーマを選定し、他商工会と連携することで目標を達成している。

3. 課題

4. 今後の対応方針(改善点)

継続して他商工会と連携した講習会等を実施する。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-----------------|------|--------|-------|---|-----|------------|--|--|
| 事業コード | 15 | 事業名 | 行政に対する要望と移転先の検討 | | | 戦略コード | 5 | 戦略名 | 環境変化に強い商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 8 | 施策名 | 商工会館の早期移転 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

老朽化が進む商工会館への対応が急務となっており、平成27年度の検討結果から「秋田市行政施設への移転」を要望している。

2. 事業のねらい

行政施設に入ること、行政との連携が取り易くなるなどの相乗効果。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | B | H30 | B | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

平成29年度に本所屋根の補修工事、平成30年度には本所北側壁の補修工事を行ったことにより、雨漏りも少なくなったことから、速やかな移転からは免れた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

秋田市との行政懇談会での要望として、行政施設への移転候補地の紹介について要望する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|---------------------------------|--------------------|-----|
| 秋田市に、行政施設に移転できるよう候補地の紹介を要望している。 | 秋田市からの候補地の紹介はまだない。 | b |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 目標 | | | | | | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

| | |
|--|---|
| 【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) | a |
|--|---|

〈評価の理由〉

秋田市に、継続的に商工会館の候補地について要望している。

| | |
|---|---|
| 【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) | b |
|---|---|

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

秋田市から、具体的候補地の紹介はまだない。

| | |
|--|---|
| 【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) | c |
|--|---|

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コスト削減には、具体的に取り組んでいない。

| | |
|--|---|
| 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 | B |
|--|---|

過去2年間で会館の補修工事を行ったことに伴い、早急な移転からは免れた。今後は秋田市から紹介される候補地を吟味しながら移転に取り組むことができた。

3. 課題

まだ、秋田市から具体的な候補地が紹介されていないことから、近い将来東側、南側の壁も補修工事が必要とされるため、ここ5年以内には候補地に紹介が必要とされる。

4. 今後の対応方針(改善点)

今後も、強く秋田市に移転候補地の紹介を要望していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和2年3月31日

令和元年度(3年目)

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-------------------------|------|--------|-------|---|-----|------------|--|--|
| 事業コード | 16 | 事業名 | 地域振興専門委員会における費用引当てに係る協議 | | | 戦略コード | 5 | 戦略名 | 環境変化に強い商工会 | | |
| 商工会名 | 河辺雄和商工会 | 担当者名 | 小笠原 正武 | 総轄者名 | 小笠原 正武 | 施策コード | 8 | 施策名 | 商工会館の早期移転 | | |

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

老朽化が進む商工会館への対応が急務となっており、平成27年度の検討結果から「秋田市行政施設への移転」を要望している。

2. 事業のねらい

移転する場合、または改修する場合であっても費用負担が発生することから、令和8年度を目途に費用を引きあてる。

3. これまでの評価結果

| | | | | | | | |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|
| 過年度 | H29 | A | H30 | A | R1 | | R2 |
|-----|-----|---|-----|---|----|--|----|

平成30年度も目標通り引当した。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き、目標達成に向けて取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度: a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

| 事業内容 | 実績 | 達成度 |
|--------------------------|----------------|-----|
| 商工会館の解体費として、150万円の引当を計画。 | 計画通り150万円引当した。 | a |

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

| 項目 | 会館解体・改修費用累計【単位:%】 | | | | | 項目 | | | | | | 項目 | | | | | |
|-----|-------------------|------|------|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|
| | 年度 | H29 | H30 | R1 | R2 | | R3 | 年度 | H29 | H30 | R1 | | R2 | R3 | 年度 | H29 | H30 |
| 目標 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 目標 | | | | | | 目標 | | | | | |
| 実績 | 10 | 20 | 30 | | | 実績 | | | | | | 実績 | | | | | |
| 達成率 | 100% | 100% | 100% | | | 達成率 | | | | | | 達成率 | | | | | |
| 達成度 | a | a | a | | | 達成度 | | | | | | 達成度 | | | | | |

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

〈評価の理由〉

計画通り、150万円引当した。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

計画通り達成した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) b

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コスト削減も視野に入れて取り組んでいるが、項目を定めたコスト削減までは至っていない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

現状では、概ね順調である。

3. 課題

4. 今後の対応方針(改善点)

収支差額が、平成30年度は250万円であったが、多少減少傾向にあることから、今後毎年150万円の引当ができるかどうか危惧される。